

---

## <王 心宇さんスピーチ>

皆さま、こんにちは。奨学生の王心宇です。

先週の土曜日に地区大会に参加させていただきました。

「君たちの将来は今の君たち自分の手に握っている」という言葉は一番印象的でした。

これは以前も聞いた言葉ですが、その時間き流しただけでした。

でも今改めて聞いた時は、とても共感しました。

大学の受験勉強も、就職活動も、そして今日の前の修論研究も全部自分で頑張らないといけないことで、出来具合も自分次第です。

どの大学に入るか、どんな会社で務めるか、どういう研究結果で学生生活を締めるかが、全部自分次第です。

この一步一步の努力を積みたって、将来の自分を作っていくのです。

だから、明日から頑張るとかを言わず、今全力でやってると言えるように頑張ります。



皆様、こんにちは。ロータリ米山奨学生の王心宇と申します。いつも勝手に例会の参加日を決めさせていただき、井田さんをはじめ、皆様にご迷惑おかけしております。本当に申し訳ございませんでした。

私はロータリ米山の奨学生として、一年経ちました。毎月の例会やクリスマスパーティーや地域大会などに参加させていただきました。留学生の私にとって、皆様は私の家族のような存在です。熊井カウンセラーをはじめ、クラブの皆様には、学業、生活の双方において常に目を配っていただき、また支援していただき、本当に感謝しています。皆様のお陰さまで、学業と課外活動を両立させながら、充実な日々を送っております。私は社会人になると、皆様と同じようにロータリ米山を通じて、社会奉仕活動に積極的に取り込んで行きたいと思えます。

今、まだ学生ですが、研究に頑張りながら、異文化交流やボランティア活動にも精一杯頑張りたいと思えます。

今後引き続き、どうぞよろしく願いいたします。

こんにちは。私は王心宇と申します。6年前、中国の河北省から参りました。今は慶應義塾大学大学院 開放環境科学専攻の修士1年に在籍しております。この度はロータリー米山奨学生に採用していただき、誠にありがとうございます。先月、この場で皆様と会うべきでしたが、研究室の輪講が毎週水曜日の午後1時から始まることで、昼間の例会に参加することが出来ませんでした。ご迷惑をかけてしまい誠に申し訳ありませんでした。

これから、自己紹介を含め、私が

- ・ 日本に留学する理由
- ・ 現在、研究しているテーマ

について紹介させていただきたいと思います。

私が日本に留学するにあたって、最も影響のあった人物は日本に20年間住んでいる叔父でした。叔父は日本から帰国するたびに「日本はとても住みやすい国だ」と自慢していました。「日本のどこらへんが素敵なのですか」と聞いてみたところ、叔父は以下の3点を例として挙げました。その3点とは“配達的时间指定”と“企業における管理システム”、そして“環境の綺麗さ”でした。

まず、“配達的时间指定”についてですが、叔父の話から日本ではネットや店頭で注文した商品を郵送で頼むときに、届ける期日と時間を指定できるということを知りました。これは日本にいる人にとっては当たり前のことなのかもしれませんが、私にとっては衝撃的な事実でした。当時、私の住んでいる中国の町にも配達サービスはあったのですが、期日と時間を指定できることを想像することも出来ず、その仕組みさえ理解出来ませんでした。

“企業における管理システム”に関しては、日本の会社は会社の注文や会計などを全部パソコンで行っているという話についてでした。私の母はある企業の会計を担当している部署で働いていましたが、決算の時期には、山ほどの会計簿と煩雑な計算を用いて整理するという業務を毎日深夜まで行っていました。もし、私たちの国、そして母の会社にも日本の会社にある管理システムがあればと心から感じました。

最後に“環境の綺麗さ”についてですが、叔父はこちらを3つの中でも特に自慢していました。日本のきれいな街と新鮮な空気です。先進国であり、自動

車大国でもある日本がどうやってあのような綺麗な環境を保っているのかはわからないが、びっくりするぐらい綺麗だ、日本に降りたった瞬間にわかる、と叔父は語っていました。

すべてが当時の私にとっては想像も出来ないような事柄でした。その後も叔父から様々な写真や日本に関する資料が送られてきて、私の中の日本への興味は日に日に高まっていきました。そして、私は高校卒業したあとに日本へ留学することを決意しました。

そうして、日本に対する浅薄な認識と強い好奇心を持ちながら、私はこの国に参りました。これは私にとっての初めての海外体験でもありました。飛行機から降りた瞬間、今まで体験したことのないような和やかな雰囲気にも包まれました。叔父の言っていた通り、本当に空気も綺麗でした。ドキドキした気持ち、これからに対する不安の気持ちが、日本の空気を吸うことによって何気なく落ち着きました。『ここだ！ここから私の新しい人生が始まる！頑張らなくちゃ！絶対に大学に入るよ！』と私は心の中で叫びました。

しかし、夢は美しいですが、夢を追う道はそんなに美しくないものです。最初の一年間は日本語学校・家・図書館の3箇所だけでの生活でした。朝、7時35分の通勤快速に乗り、午後4時15分までは学校で日本語と基礎科目の勉強でした。夜6時半から10時半までの時間は家の近くの図書館で過ごしました。更に当時は上記のような生活をしていたため、日本人の方と全く交流出来ていませんでした。これはいけない、せつかく日本に来ているのに、と思い、当時住んでいた市の国際交流センターに日本語の練習もかねて飛び込んでみました。そこでは日本人と外国人がマンツーマンで楽しげに国際交流をしています。最初は不安でしょうがなかったですが、皆さんとても親切で本当に助かりました。少し経ってから、私はその国際交流センターで一人のお婆さんと出会いました。そのお婆さんはとても親切で、私を孫のようにしていただきました。お婆さんは私を今まで縁のなかったところに連れていってくれました。そのお婆さんのおかげで、私は日本の習慣や生活が段々わかるようになりました。それからの生活も勉強を中心していましたが、そのお婆さんと国際交流センターで日本の

方々とコミュニケーションしながら、バーベキューや植樹などの活動もやらせて頂き、とても充実した日々を過ごさせていただきました。

その一年間の日本での生活によって、日本に来る前に叔父の言っていた“日本の凄さ”というものが段々わかってきました。配達サービスが便利である理由は、配達会社が数学的アルゴリズムを取り入れた優れた配達管理システムを用いていることでした。また、会社の会計システムが進んでいるのはIT技術うまく利用しているからだということがわかりました。最後の環境がきれいである理由は、日本の企業や民間の方々が環境を念頭において、事業や生活を行っていることからだということがわかりました。これらをヒントに、私が大学で何を勉強したいのかが明確になりました。能率的かつ快適な社会環境が要求されている現在において、高度のソフトウェア技術が社会のニーズの多様化に対処できるのではと考えました。そのため、統計解析、情報処理、システム解析、経営管理、オペレーションズ・リサーチ (OR) などの理工の基礎知識を統合し、システムの設計・運用・評価とそのコントロールを勉強したいと思いました。以上のことから、私は慶應義塾大学の管理工学科を希望しました。

長くなりましたが、これが私が日本で留学している理由になります。

次に現在私が研究しているテーマですが、学部で私は統計解析、情報処理、人間工学、経営管理、オペレーションズ・リサーチ (OR) など幅広く勉強しました。その中でもオペレーション・リサーチと情報処理に興味を持ちました。OR でナップザックやセールスマンなどの最適手法を学びましたが、この応用としての実例がまさに配達問題であるのです。つまり、「荷物の輸送や旅客の輸送がどのようにコントロールされているのか」「客のニーズに対して、経営側のコストへの要求に対して、さらに環境に対してどのように最適化されているのか」ということです。これらの問題を計算するには膨大な計算量があるため、コンピュータを通じてアルゴリズムを作成し、それを利用して最適値を探します。大学4年のときから、私は最適配達問題を中心として勉強し始めました。そこで、出会ったのは組合せ最適問題を解決する SA 法というアルゴリズムです。

SA 法は工業に使われている焼きなまし法のアイデアを借りて作られた最適化手法です。この手法を改善しながら、最適解の探索研究生活を始めました。

まず、対象となる何十台の車の消費エネルギーを最小化するという目的関数を作り、倉庫から配達先までのいくつかのルートをランダムにさせ、コンピュータで消費エネルギーを最小化する最適なルートを探し、という研究を今現在やっております。ここで、探索時間を長くすればするほど、よりよい最適解が得られるという性質が SA 法にあります。現実的にそういう長い探索時間を許す場合が少ないです。したがって、解の質があまり落とさずに探索時間が短縮できるというのは今のメインの研究テーマとなっております。

最後、日本での留学生活に対する感想を話しさせていただきたいと思います。一言でいえば、日本に来て本当に良かったです。進んでいる技術を勉強できるだけではなく、仕事や研究に対する日本人の真剣さと責任感もしみじみ実感しました。また、日本人の思いやりに感心しました。製品でも、サービスでも、いつもお客の立場から考え、最も便利で使いやすいものを作り出すということによって、日本の製品と技術が世界中にブランドとしての存在ができました。最後、最も感動されたことは日本の助けあう精神です。2008 年の中国四川省の地震が発生したあと、日本政府はもちろん、民間の方々もデパートや路上で大規模な募金活動が始まりました。日本人の温かいご支援に深い感動を受けました。今でも感謝で胸がいっぱいです。本当にありがとうございます。

この 6 年間の留学生活によって、留学生としての私は、日本人の仕事に対する真剣さや責任感と、国境を越える助け合う精神を中国の人々に広げないといけないということを強く感じました。

最後に、繰り返しになりますが、私をロータリー米山奨学生として採用して頂き本当に有難うございます。皆様のおかげで研究に専念できることに感謝し、これから、大学院で研究者としての素養を磨き、社会に対して貢献できるような人材になれるよう、努めて参りたいと思っております。

ありがとうございました。